

立川市第6次生涯学習推進計画  
令和3年度取組状況の進捗評価表  
(令和4年度実施)

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-① 市民ニーズにこたえる事業の推進
目的	学びを求めるすべての市民が、学びたい内容を、学びたい方法で、学びたい場所で学べるよう、多様な学習機会を創出します。また、市民のニーズを掘り起こしたり喚起したりするような事業を展開します。
主な関係する事業	●市民交流大学運営事業 ●地域学習館事業
3年度取組状況	市民企画講座：開催数37件、参加者数1,483人（令和2年度開催数28件、参加者数996人） 団体企画型講座：開催数27件、参加者数1,737人（令和2年度開催数16件、参加者数951人） 行政企画講座（開催数385件、参加者数32,662人）（令和2年度開催数262件、参加者数20,163人）
事業の成果・課題 今後の方向性	<p>【成果】たちかわ市民交流大学の柱のひとつに位置付けている、市民主体の市民企画講座を、市民参画組織の市民推進委員会が市民目線で展開しました。また、地域の組織、サークル、団体等と連携して実施する団体企画型講座、地域学習館運営協議会が実施する地域活性化講座などの行政企画講座を開催し、市民ニーズに即した学習機会を提供しました。</p> <p>【課題】市民交流大学事業全般において、年齢等に関わらず市民の誰もが、生涯に渡り学習機会を享受できる環境を整えていくことが継続した課題です。</p> <p>【今後の方向性】市民と行政が真に協働して講座を実施する仕組みは、他自治体を見ても画期的です。今後も、市民力で作る生涯学習社会の実現のため、講座の内容面の充実とともに事業の発展を目指していきます。市民推進委員会は発足して14年が経過し、委員の高齢化が進んでいます。今後も継続して市民目線の講座を届けるため、特定の市民推進委員に過度な負担がかからないような働きかけや効果的な入会案内の周知等、活動しやすい環境づくりや新規入会者の増加につながるよう支援していきます。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>昨年度と比べ、講座の開催数や参加者数が増加しており、人気の講座はすぐに定数に達するなど市民の学習意欲が高まっているとともに、市民ニーズにこたえた講座が企画できていると言えます。ただし、市民推進委員の高齢化が進んでいることから、活動しやすい環境づくりや若年層の登用・意見の取り込みについて、オンラインによる配信など具体的に検討する必要があります。また、市民推進委員だけでなく受講者の年齢層の変化に対してもニーズの検証を行い対象者を絞るなど、より魅力的で参加しやすい講座設定が求められます。</p>
----	--

## 3. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-1-② すべての人が学べる機会の提供
目的	時間的制約や障害の有無、年齢や性別、国籍の違い、経済的格差などにかかわらず、すべての市民が学ぶことができるよう、さまざまな方を対象とした学習機会を提供します。また、障害のある方が講座などに参加される際の情報保障や、保育付き講座を推進します。
主関 な係 事 業 する	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">●青春学級事業</li> <li style="margin-right: 10px;">●成人対象事業</li> <li style="margin-right: 10px;">●生涯学習推進事業</li> <li style="margin-right: 10px;">●高齢者対象事業</li> <li style="margin-right: 10px;">●子ども対象事業</li> </ul>
3 年 度 取 組 状 況	<p>障害者理解講座等：開催日数25日、延べ参加者数80人（前年度：同17日、同127人）</p> <p>寿教室：9教室、開催日数285日、延べ参加者数6,595人（前年度：同200日、同4,750人）</p> <p>家庭教育講座：開催日数21日、延べ参加者数277人（前年度：同17日、同296人）</p> <p>青春学級：登録人数54人、開催日数50日（前年度：同54人、同22日）</p> <p>いきいきたちかわ出前講座：開催14講座、延べ参加者数108人（前年度：同20講座、同208人）</p>
事業の 今後の 方向性 ・課題	<p>【成果】新型コロナウイルス感染症のため延期や中止とした講座等もありました。寿教室については、クラスを二つに分散しての開催とするなど継続して開設・運営し、健康づくりと生きがいの創出を中心としたメニューを提供し、高齢者の社会参加を促進しました。また、平和・人権学習、子ども対象、多文化共生・国際理解などのテーマごとにプロジェクトにして取り組んでいます。各プロジェクトで感染対策をして講座の開催やイベントを実施し、学習機会の提供ができました。障害者関連の市条例を意識した障害者理解講座の開催や感染対策のため内容の変更をしました。また、夏休みの子どもの居場所づくりのイベントなどを実施しました。青春学級事業は、委託化により専門的な活動としての充実度を増していますが、コロナ禍の為昨年度同様に2グループに分けるなど感染症対策をし、ハンドベル演奏や相談業務を実施した他、保護者の要望の高かった宿泊研修を実施しました。</p> <p>【課題】日本語を話せない人たちや障害者が参加可能となる講座やイベント開催が求められています。たちかわ市民交流大学事業の中では、一部の講座に限られています。</p> <p>【今後の方向性】多様な人々が学習機会を享受することができるよう環境を整え、引き続き取り組みます。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>多様性を重視し、年齢や障害の有無に左右されない平等な学習機会の提供に尽力されていると思います。引き続き“出来得る限り可能な範囲”の配慮をした取組をより実践していけるように、意識するとともに体制づくりについても検討を行ってください。言語や表現など文化の違いにより受け取り方は様々なため、配慮すべき事柄について明確化し、共有することも一つの手段となります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催日数は増加したものの参加者数が減少している事業が見受けられます。全学習館に導入されたWi-Fiを活用することによって、会場に来ることができなかつた人に対しても学習機会を提供することができるようになるため、今後は積極的な活用を期待します。</p>
----	--

## 3. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-① 交流の場や機会の提供
目的	「知縁・学縁」の形成や講座内容の充実・発展のため、受講者や地域学習館利用者同士の交流や、学びに関わる組織のスタッフ同士の交流の場を設けます。また、「学社一体」の実現への第一歩として、学校教育関係者と社会教育関係者が双方のニーズを把握することができるような方策を検討します。
主な関係する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民交流大学事業</li> <li>● 成人対象事業</li> <li>● 子ども対象事業</li> <li>● 高齢者対象事業</li> <li>● 地域学習館まつり事業</li> <li>● 学習等供用施設管理運営</li> <li>● 社会教育関係団体等の育成事業</li> <li>● 地域学習館事業</li> </ul>
3年度取組状況	<p>地域学習館運営協議会交流会：中止（前年度：中止）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：開催数1回（前年度：中止）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員会サポーター会：中止（前年度：中止）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員さらさら交流会：中止（前年度：中止）</p> <p>地域学習館「まつり事業」は、錦学習館だけは開催</p> <p>各学習等供用施設「まつり事業」中止</p> <p>各年度行っている「寿教室バスハイク」（高齢者事業）中止</p>
事業の今後の成果・課題	<p>【成果】新型コロナウイルス感染症のため地域学習館、学習等供用施設で行っている「まつり事業」は錦学習館のみ開催することが出来ましたが、その他は中止となりました。また、スタッフ同士の交流事業も中止となりました。</p> <p>「学社一体」の取り組みとして地域学習館と学校と地域を繋ぐ役割をする「地域学校コーディネーター」との交流や情報交換を全学習館で進めました。</p> <p>【課題】新型コロナウイルス感染症のため、交流事業のほとんどが開催中止となりました。安全安心の確保をしつつ、開催するための方向性などを実行委員会、地運協等と連携し開催の有無の協議を事前に進めていくなどの準備が必要と考えます。</p> <p>【今後の方向性】地域の特性も持った事業を展開します。利用する団体と地域の団体等の交流を進めることで、地域の拠点としての存在感を高めます。利用者の高齢化が進むことから、異なる世代の参加を促し、幅広い世代の利用に繋がります。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>交流の場として大きな役割を持つ「まつり事業」の多くが中止になってしまったことは非常に残念ですが、オンライン開催を行うなど新たな試みを実施したことは評価できます。</p> <p>また、地域学習館と地域学校コーディネーターとの顔合わせや意見交換会が開始されるようになったことに関しても評価できますが、学校と地域の人材をつなぐ役割を担う立場にあるため、双方向性の情報共有や活動が今後さらに求められます。</p> <p>全体を通して、中止となった事業が多いことからガイドライン等の基準を設けて開催できる方向性を見出すこと、対象者を絞るなどして交流しやすい企画を検討すること、オンライン活用でどこでも交流できるような工夫を行うことなど、多角的に事業を検討していくことが求められます。</p>
----	---

## 3. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-2-② 地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進
目的	市民の学びあいの機会を育み、地域課題の共有化と解決に向けた市民の主体的な学びを創出するための支援が求められています。地域課題の認識を深め、解決策の検討に参画し、地域に自らが主体的に参加し協働するまでの流れを意識した講座などを充実させ、学びの成果を地域に生かし還元できていることの見える化を図ることで、社会や地域に貢献したい、社会をよくしたいと考える市民の方が一人でも多くなるよう努めます。そして、子どもから大人まで多くの市民が参加したくなるような「立川市民科」の定着とさらなる発展を目指します。
主 関 係 事 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
3 年 度 取 組 状 況	地域課題に取り組んだ地域学習館事業としての西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、好評を得て5年目の開催となり、多くの協力者のもと開催、定番化しています。また、市民を取り巻く行政課題への取り組みとして「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」に関連して開催している高松学習館の障害者理解講座やイベントも、好評を得て定番の事業として取り組まれています。
事 業 今 後 の 成 果 向 ・ 課 題 性	<p>【成果】地域の子どもの夏休みの居場所づくりを目的とした西砂学習館の「西砂サマーイベント」は、対象の子どもの居場所確保だけでなく、この事業が地域に浸透しており、地域の協力体制がさらに高まり、地域づくりという観点で大きな成果をあげています。また、高松学習館の障害者理解講座についても、地域や関係団体の協力のもと、さらに幅広い事業の展開が見込まれています。地域に限定した特徴的な取り組みからのスタートですが、他の地域への刺激となっていることも大きな成果の一つです。</p> <p>【課題】引き続き、地域課題の解決に結びつくような講座として、多くの市民が参加し「立川市民科」としての定着が必要であり、さらに工夫を重ねて進めていくことが課題です。</p> <p>【今後の方向性】学びの成果を地域課題の解決に生かしていくことが、これからの生涯学習活動に求められるものであり、「立川市民科」の取組みとしても関連しています。「子どもの貧困」「少子高齢社会の到来」など、行政課題の共有化と解決に向けた取り組みを継続して進めていきたいと考えています。地域学習館運営協議会どうしが連携したり情報を交換したりしながら地域課題の解決を目指します。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>地域学習館運営協議会の代表者会議が行われ、情報共有が行われるようになった点は評価できますが、地域課題の共有化はさらに進める必要があります。各学習館に代表される地域課題への取組についても他館と共有や実施を検討することにより、各学習館の特殊性や地域性に合わせた取組として新たに生かしていくことができると考えます。また、講座の企画・実施段階では、地域課題の解決に結びつくような講座や学びの成果を地域課題の解決に活かしていく講座となるように意識することが求められます。「立川市民科」についても地域を知るだけの学びに留めず、地域に関する課題を見つけ、課題解決のための具体的な取組を行い、市民が主体的に行動する社会の担い手となるまでのサイクルを意識することで、地域課題解決に向けた取組として展開していくことが期待されます。</p>
----	--

## 3. 評価

評 価	B	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-① 市民とともにつくる学びの場づくり
目的	市民の力を生かして活動している各種団体と協働し、市民参加による学習機会の創出に取り組みます。市民が自ら企画できる公募型の団体企画型講座は、より多くの団体に活用していただくことで、多様な講座が展開されるようバックアップします。
主 関 な 係 事 業 す る	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業 ●学習等供用施設管理運営
3 年 度 取 組 状 況	講座企画に新たな視点を取り入れる取り組みとして、たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画する講座の中で、大学生からの提案を一部取り入れるといった取り組みをしました。 公募型団体企画型講座では、より公平で幅広い応募が得られるよう平成31年度に募集内容を一部見直していますが、令和3年度にも新規の申込がありました。 公募型団体企画型講座：13件、うち新規4件（令和2年度：同8件、同1件）
事 業 今 後 の 成 方 果 向 ・ 課 性 題	<p>【成果】昨年度に続き、市民推進委員会が学生と一緒に企画・運営したことで、講座をつくる側での世代間の意見交換や情報共有がさらに深まり、講座企画や運営の幅が広がりました。</p> <p>公募型団体企画型講座では平成31年度に公募内容を見直したことにより、公平な実施と新規団体が参加しやすい環境につながりました。</p> <p>【課題】学生との連携で、講座をつくる側での世代間の交流は深まりましたが、引き続き、講座受講者に若年層を呼び込むという点では課題が残ります。公募型団体企画型講座では、より多くの市民団体が講座を開催できるよう、また、さまざまな年代の方が講座に参加できるよう広報手段等を見直す必要があります。</p> <p>【今後の方向性】公募型団体企画型講座については、引き続き様々な方法による周知に努めます。また、市民交流大学事業の大きな目的の一つとして、「生涯学習からはじまるまちづくり」を推進することが挙げられていることから、講座事業の中で、「学習者から実践者へ」という広がりへの意識を持ちながら、学びの循環がしやすい企画を行います。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>公募型団体企画講座の参加者数が増えたことや学生参加型による新しい視点での課題解決を目指した事業が実施できている点は評価できます。学生の知識・知恵と行動力を活用して取り組むことにより、課題である若年層への周知・啓発にもつなげていくことに期待します。また、市民推進委員と学生の協働や行政企画講座での市民との協働が広がっていることについても評価できます。</p> <p>「学習者から実践者へ」の循環機能をさらに推進するためには、講座実施後に受講者の感想を基に次代に生かせる講座内容だったかなど検証を行うことも必要です。</p>
----	---

## 3. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								B

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	I-3-② 各種団体・組織などと連携した学習機会の創出
目的	市内や周辺地域には、高等教育機関や研究機関、活力ある民間企業など、連携・協働により魅力的な事業を展開できる可能性を秘めたさまざまな組織に溢れています。それらの組織と手を取りあい、多様な事業を展開します。 また、生涯学習活動は広範な分野にわたり、全庁的に取り組まれています。たちかわ市民交流大学庁内調整委員会を中心とした調整に努め、連携・協力して事業を行います。
主関 な係 事す 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業 ●催物事業 ●青春学級事業 ●地域学習館まつり事業 ●学習等供用施設管理運営 ●八ヶ岳山荘管理運営
3 年 度 取 組 状 況	たちかわ市民交流大学事業として行われる講座などで、国立極地研究所、国立音楽大学などと連携しました。市と包括連携協定を締結した三井住友海上火災保険（株）ほかの民間企業とともに、連携型の団体企画型講座を開催しました。また、平成28年度に連携・協力に関する協定を締結した東京学芸大学とは、前年度に引き続き講座の開催だけではなく、地域学習館まつり事業などのイベントに主体的にご協力いただきました。このほか、東京女子体育大学の公開講座の募集を広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」で、市民にお知らせしました。
事 業 の 成 果 ・ 課 題 性	【成果】市内にある国の機関や企業、大学という知的資源を活用することで、より専門性の高い講座を市民に提供することができました。また、東京学芸大学との連携・協力では、学生視点での取り組みがなされ、これまでに不足しがちだった若年層へのアピールにもつながりました。 【課題】市内の高等教育機関等は他にはない地域資源であり、高度なレベルにある知的資源であることから、これらをいかに効果的に市民に還元していくかが重要です。市民の学習ニーズと知的資源を結びつける職員のコーディネート能力が、引き続き必要とされます。 【今後の方向性】貴重な地域資源の活用という点で、他の自治体にはない立川市独自の優位性があります。今後も引き続き関係機関との連携を大切にしながら、より市民ニーズに合った講座に結びつけ、生涯学習の推進に役立てていきたいと考えています。

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	大学や各種団体との連携事業が広がりを続けており、多様な講座を開催することができています。しかし、立川市内には連携事業を検討もしくは強化すべき高等教育機関、研究機関、農業・商業・スポーツ関連を含めた地元中小企業などの団体や組織があります。これら団体や組織と連携を実施するには、職員の企画力やコーディネート力が求められます。地域が一体となって活動を進めていけるように明確な研修体制を構築し、学習機会が拡大していくことに期待します。
----	---

## 3. 評価

評 価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の 評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅱ-1-① さまざまな媒体の活用による広報
目的	広報たちかわやたちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」などの紙媒体や、ホームページ、ツイッターなどのSNSも活用し、多様な媒体による情報提供を行います。多言語への対応や、障害のある方に対しても情報を等しく届けられるよう、関連団体とも協力して取り組みます。行政がただSNSで発信しているだけでは効果に限界があることから、情報の受け手となる市民に認知され、拡散してもらうための施策の実効性を、費用対効果を含めて検討します。
主 関 係 事 業	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
3 年 度 取 組 状 況	「広報たちかわ」、市ホームページ、情報誌「きらり・たちかわ」（紙媒体）では原則としてすべての講座を紹介したほか、市ツイッターでも講座や催しについての情報提供を8件行いました。「きらり・たちかわ」（音声版）については、広報たちかわへの掲載、ガイドヘルパー事業所への情報提供、視覚障害者が参加する講座等で直接勧誘を行うなど、利用者の拡大に努めました。また、市内を歩く講座の様子を立川市のユーチューブアカウントで動画をアップし、市ホームページからも閲覧できるようにしました。
事 業 の 成 果 ・ 課 題 の 方 向 性	<p>【成果】「きらり・たちかわ」（冊子）については、講座情報以外の特集記事やイベント記事の充実に努めたり、新たな配架場所の開拓などにより多くの方が目にしてもらえるようになりました。また「きらり・たちかわ」（音声版）については、ガイドヘルパー事業所や視覚障害者へ直接働きかけを行う等、利用者の拡大に努め、新たな希望の申し出が1件ありました。</p> <p>【課題】「きらり・たちかわ」は読者数が増えるような新規読者の獲得方法、「生涯学習情報コーナー」は、立ち寄りやすい雰囲気づくり等の工夫が課題です。</p> <p>【今後の方向性】若年層、高齢者、障害者といった方々の誰もが情報を入手できるような情報発信に引き続き努めます。また、正確性と迅速性を第一に取り組むと同時に、受け手に興味を持ってもらう工夫も行います。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>「広報たちかわ」、「きらり・たちかわ」、ホームページによって発信される講座情報等は、内容がわかりやすく広く市民に普及しています。特に紙媒体の広報紙を主な情報収集の手段としている人たちも多くいることから、配架場所の開拓等の取り組みは評価できます。しかし、若年層に知ってもらうための市ツイッターの発信が少なく、SNSの活用に見直しが必要と思われます。</p> <p>これからはユーチューブが自治体の映像ストレージのような役割を果たしていくことが予想されますので、動画制作や管理を行う人人体制を含めさらなる検討が求められます。引き続き、新たな取り組みで広報活動を活性化し、市民の目に止まる取組に期待します。</p>
----	---

## 3. 評価

評 価	A	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							A	



# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-② 学びの裾野を広げる情報発信
目的	市ではさまざまな学習機会を提供していますが、関心はあっても学びの最初の一步を踏み出せない人、自分にあった学びの機会を見つけられない人などが、より多く参加していただけるように、情報を届ける工夫をします。
主 関 な 係 事 業 す る	●市民交流大学運営事業 ●成人対象事業
3 年 度 取 組 状 況	地域活性化講座などでは、地域自治会や青少年健全育成地区委員会などにチラシの配布やPRを行いました。 子ども向け講座では学習館周辺の中学校、小学校を通して生徒や児童へチラシの配布を行いました。 講座情報誌「きらり・たちかわ」を市内各所に配架するとともに、個別の講座情報については募集チラシ・市ホームページ・市ツイッターによる周知にも努めました。
事 業 今 後 の 成 方 果 向 ・ 課 性 題	【成果】昨年度から始めた西砂学習館での地域学習館運営協議会の活動を紹介する「西一元氣通信」を継続して発行し、地域自治会などへ配布をお願いし、学習の機会の最初の一步として踏み出せる様に情報を届けました。また、市内を歩く講座の動画を立川市のユーチューブアカウントで放映し学習館での活動情報を届けました。 【課題】積極的に学びたい方や、関心の高い方には情報は届いていますが、勤労世帯や子育て世代の参加が少ない傾向にあるので、これらの方へ情報が届く工夫が課題です。 【今後の方向性】学習館を紹介するホームページに、開催したイベントや講座の報告を載せます。また、動画などのリンクを活用して、より多くの方に関心をもっていただけるように努めます。

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	「広報たちかわ」など全戸配布のものに情報を掲載することは今後も必要とされ、紙媒体での提供は効果的であり、「きらり・たちかわ」についても配架場所を工夫するなど効果的に活用できています。勤労世帯や子育て世代など積極的に情報を取得できない層に対して、学びの裾野を広げるには、情報を目にする機会を増やすことが効果的です。具体的には、企画概要、開催周知、開催報告など段階ごとに文字や画像が主体のSNSで発信数を増やしたり、短い動画を数多くを配信して忙しい方でも手軽に見られるようにするなど、短時間でイメージをつかめるようにする工夫が求められます。また、立川市役所など人が集まる場所で動画配信等できないか、配信方法についても検討する必要があります。
----	--

## 3. 評価

評 価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								C

## 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

### 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	II-1-③ 学習相談体制の充実
目的	「市民の共学・協働に育まれたまちづくり」を推進していくため、専門的な知識・技術の習得のみならず、地域に密着した人的ネットワークを構築できる職員の育成や、生涯学習に関する相談・助言体制の強化を図ることが求められています。職員は、学習のコーディネーターとして学習情報の提供を通じた市民ニーズの再発見を行い、市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通して実際に解決できるよう支援していきます。
主 関 な 事 業	●市民交流大学 ●成人対象事業
3 年 度 取 組 状 況	生涯学習情報コーナーでの学習相談355件(前年度：同679件) (社会教育関係団体関連138件、生涯学習指導協力者(市民リーダー)関係29件、施設案内32件、学習相談7件、その他149件) 課内研修：生涯学習関係者研修1回、事業連絡会2回(前年度：同0回)
事 業 の 成 果 の 方 向 性・ 課 題	<p>【成果】相談窓口として、各学習館と生涯学習情報コーナー(女性総合センター・アイム1階)があることで、生涯学習に関する情報を求めている市民に対し、情報提供することができました。相談窓口の周知として生涯学習情報コーナーを「きらり・たちかわ」へ掲載しました。</p> <p>【課題】市民の学習に関する困り事や地域での課題相談ができる場所としての認識が広まっていないのが現状です。</p> <p>【今後の方向性】地域学習館及び生涯学習情報コーナーが、課題解決に向けた助言ができるような相談窓口として機能し、かつ広く周知することが理想です。引き続き、研修などで職員の能力向上に向けた取り組みを続けるとともに、相談窓口としての機能をどのように持たせるか検討していきたいと考えています。</p>

### 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>地域学習館で行う相談窓口は意義のあるもので、より専門的な相談体制が求められるため、人員体制を見直す必要があります。具体的には学習を通じて実際に解決できるようなコーディネーターを配置する必要があります。</p> <p>コロナ禍では従来の手法より一歩進んだ相談体制を整える必要があります、各施設へ足を運ぶことができなかった方に向けてオンライン相談を実施するなどの工夫が求められます。</p>
----	--

### 3. 評価

評 価	C	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-① 学びにかかわる市民や組織との協働
目的	これまで市では、たちかわ市民交流大学市民推進委員や地域学習館運営協議会委員、生涯学習市民リーダーをはじめとして、各種地域団体や施設利用団体とともに、それぞれが持つネットワークを生かした地域人材の把握・活用が行われてきました。今後も引き続き、さまざまな主体が互いに協働しながら生涯学習施策を推進し、市民力を生かしたまちづくりの実現を目指します。
主 関 な 係 事 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会教育関係団体等の育成事業    ●社会教育関係団体登録制度事務    ●成人対象事業</li> <li>●生涯学習市民リーダー登録制度事務    ●学校支援ボランティア事業    ●地域学習館事業</li> </ul>
3 年 度 取 組 状 況	<p>生涯学習市民リーダー登録人数：延べ120人（前年度：延べ162人）</p> <p>講師フェア来場者数：延べ707人（前年度：延べ555人）</p> <p>学校支援ボランティア登録者数：80人（前年度：62人）</p> <p>たちかわ市民交流大学市民推進委員研修会：開催数1回（前年度：中止）</p> <p>生涯学習関係者研修会：開催数1回（前年度：中止）</p>
事 業 今 後 の 成 果 向 性 課 題	<p>【成果】生涯学習市民リーダーの「みんなの講座」を9回開催した中で、市民リーダーを講師とした1団体の社会教育関係団体設立を支援しました。また、生涯学習市民リーダーの作品展や体験講座、パフォーマンスをし市民や他組織に周知する講師フェアを実施しました。</p> <p>【課題】地域活性化講座やシルバー大学等では生涯学習市民リーダーが活用されていますが、ほかの団体との協働を広げていく必要があります。地域学習館等のイベントなどでの周知を積極的に進めていく検討が必要です。</p> <p>【今後の方向性】成人対象事業等で市民リーダーの活用が進むように、地域学習館との交流の場を設けるなど、生涯学習市民リーダーと地域組織とで協働ができるよう努めてまいります。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>立川市は他市と比較して多くの学びの場があります。これは各種地域団体や団体同士の連携・協働、生涯学習市民リーダーの活動に起因するものと考えます。今後も生涯学習市民リーダーの活用が進むように、自己研鑽の場として成果が出ている「みんなの講座」などによる支援を継続してください。</p> <p>また、学社一体の取組として、市内の小中学校での生涯学習市民リーダーやPTAをはじめとした社会教育関係団体、学生参加によるボランティア活動などの協働について広く周知するなどし、学校との連携・協働の裾野を広げていく必要があります。</p>
----	---

## 3. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								B

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-② 地域を担う将来世代を育むしくみづくり
目的	それぞれの地域によって異なる特色と課題をどのように学びとして取り上げ、共有し、解決に向けて取り組んでいくのか、そのしくみづくりに取り組みます。地域の学習拠点である地域学習館においては、運営協議会委員がこうした取組の計画や運営、評価に積極的に関わられるようなしくみを整えるとともに、自治会や社会福祉協議会との連携・協働を図り、出前講座の活用を促すなどして、地域の中での学習を支えます。
主な事業	●地域学習館事業 ●成人対象事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館まつり事業 ●催物事業 ●学習等共用施設管理運営 ●社会教育関係団体等の育成事業 ●学校支援ボランティア事業 ●歴史・民俗普及活動事業
3年度取組状況	地域活性化講座：開催数23件、参加者数920人（前年度：同21件、同971人） 歴史民俗資料館体験学習会等：開催日数12日、参加者数213人（前年度：同7日、同102人） 昔の道具体験：実施校10校（前年度：同10校） 六面石幢の修復事業
事業今後の成り行き・課題	【成果】地域の特色や課題を踏まえた講座である、地域活性化講座や歴史（地域学習館運営協議会主体として企画する講座等）を実施することにより、地域の課題解決へ向けての仕組みづくりは定着化しつつあります。また、将来世代の育みとしては、地域学校協働本部の「地域学校コーディネーター」や「学校支援ボランティア」が子ども達へ支援したり、歴史民俗資料館事業では郷土学習への支援を行いました。 【課題】各学習館では講座等の事業を通し、地域の拠点として各団体との連携・協働を進めていき、地域特有の課題の把握や将来世代の育成を進めていく必要があります。 【今後の方向性】地域と学校との連携を進め、将来世代を育む取組みとして、地域学校コーディネーターと地域学習館（運営協議会）との繋がりを広げ「学社一体」を推進するための地域づくりを進めていきます。また、学校に必要な地域資源を自治会や社会福祉協議会などと協働し派遣をし、学校教育と社会教育を結び地域の学習の拠点として地域学習館が活用できる取組みを進めていきます。

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	いくつかの地域学習館で行われた地域学校コーディネーターとの話し合いは、意義のある取組です。今後さらに深化させて実りのあるものにさせていくために、学校と地域社会が子どもを育成していくための共通目標を設定し、協働していく必要があります。そのためには、地域学校コーディネーターが学校と地域社会のつなぎ役を行い、連携・協働の推進を図ることが期待されますが、地域学校コーディネーターに対するサポート体制についても検討する必要があります。 将来世代を育むために子育て中のパパを対象とした講座など、時代に合わせた企画を行い、さらなる充実を図ってください。 また、地域の担い手は限られた者ではなく、すべての世代が将来の担い手であり、本質的な学びにより自らの力で取り組むことができ、多様な人材が参画可能なユニバーサルデザインとしてのしくみづくりを意識する必要があります。
----	--

## 3. 評価

評価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							B	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-1-③ 「立川市民科」の推進
目的	「立川市民科」は、他の自治体には見られない特徴的な取組です。特に学校教育における取組は先進的で、既に一定の成果が出ています。一方で、生涯学習における「立川市民科」の取組は黎明期にあります。定着化とさらなる発展に取り組みます。また、「立川市民科」の考え方や方向性を市民にわかりやすく発信するよう努めます。
主 関 な 係 事 業 す 業 る	●成人対象事業
3 年 度 取 組 状 況	立川市民科講座：開催日数9日、参加者数107人（前年度：同10日、同117人） ○立川を歩く～曙・高松周辺 ○立川を歩く～曙・高松周辺～ふりかえり ○こころを傾けて聴こう～傾聴のおはなし～ （砂川学習館、女性総合センターAIM） ○はじめてのアロマワックスサシェ作り
事 業 の 成 果 ・ 課 題 の 方 向 性	【成果】郷土学習を通してまちを知り、地域に愛着を持ち、地域に貢献する立川市民科の講座として、「立川を歩く～曙・高松周辺」などの講座を実施しました。また、令和2年度実施した「新田砂川を訪ねて」のDVDやブックレットを作成し市内図書館等に配架や概要版の配布を行い立川市民科の取組の発信をした。 【課題】DVDやブックレットの作成は一人の職員のスキルによって可能となっている部分がみられます。「立川市民科」が定着し発展させるためには、今後も継続して取り組んでいく必要があります。 【今後の方向性】職員へのブックレットの作成研修を行います。また、「立川市民科」に即した講座を実施するとともに、地域学習館のイベント等においても「立川市民科」の周知に努めます。

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	立川市民科の実例が積み重ねられてきている一方、立川市民科の内容で取り上げる地域特性について、語る人が年々減っていくことが予想されます。後継者の養成や知的財産の記録等の保存の観点からもブックレットやDVD等の作成については、より配慮が必要となります。継続性を持たせるための人員や役割分担についても併せて検討する必要があります。 学校教育における立川市民科に比べて、生涯学習における立川市民科は考え方が市民に共有されておらず、認知及び理解してもらい取組も必要です。事例に対する振り返りやまとめが公開され、多くの市民の目に触れる形で活用されることを期待します。
----	--

## 3. 評価

評 価	B	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								B

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-2-① コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化
目的	職員のコーディネート力は、今後の地域学習館のあり方を考える上で無くてはならない能力であり、積極的な能力開発・育成が求められています。各施設に配置された職員が、利用者や地域団体との情報交換を通して、地域で活動する団体の活動内容や活動の核となる人材を把握し、その情報を必要とする人と結ぶことができるよう、職員のコーディネート力のより一層の向上に努めます。また、具体的な地域課題を学びにつなげる企画力、市民と協働して学びを展開する実践力を研修などを通じて養っていきます。
主 関 な 係 事 業	●生涯学習活動推進事業
3 年 度 取 組 状 況	平成29年度から始まった、東京学芸大学で開催された全8回の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」を生涯学習推進センター職員4名が受講しました。 また、生涯学習推進センター職員1名が社会教育主事講習を受講しました。
事 業 の 成 果 向 性 課 題	<p>【成果】生涯学習推進センター、特に地域学習館は、利用者や利用団体との信頼関係をベースに「人・学び」をつなぐ役割を担うため、コーディネート力を身に付け業務に生かしていくことが職員の能力として求められています。引き続き東京学芸大学の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」を受講したことは、職員の能力向上に大きく寄与するものと考えています。</p> <p>【課題】5年目になり延べ16名が受講しましたが、受講した職員が課内研修の講師として他の職員に自身が学んだことを還元するような取り組みまで進めることができませんでした。</p> <p>【今後の方向性】今後も東京学芸大学の公開講座に生涯学習推進センター職員をはじめ市職員を派遣し、課内研修をはじめ、職員間でも自身が学んだことの還元や共有をすすめ、コーディネート力の向上を目指します。また、社会教育主事講習の受講を積極的に進め、知識や技術、学習成果を活用し、生涯学習を推進します。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	生涯学習を推進していくには各学校施設や関係機関、諸団体と連携・協働していくためのコーディネート能力が市職員に求められています。様々なノウハウを持つ大学と連携し、研修を継続的に行っている点は評価できますが、研修の成果が個人に留まることがないように職員間の共有のための還元研修の機会を設ける必要があります。また、他の講習や研修への参加、人員体制の強化など地域学習館の職員が学んだことを十分に発揮できるような環境や体制づくりも必要です。
----	---

## 3. 評価

評 価	C	S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている A: 順調に達成している B: おおむね順調に達成している C: 達成見込みであるが一部課題がある D: 達成に向け困難な課題がある	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-① 学習施設の充実と利便性の確保
目的	私たちは、これまでと同じ考え方で施設の維持管理に取り組んでいるだけでは不十分であるということ認識する必要があります。将来にわたって生涯学習・社会教育を推進していくためには「学習の場の確保」は必須条件です。複合化などにより施設のかたちが変わるとしても、学習施設が持つ「機能」については確実に維持し、市民の学習活動が後退することのないよう、限られた施設や資源を有効活用する方策を検討します。
主 関 係 事 業	●生涯学習活動推進事業
3 年 度 取 組 状 況	令和3年3月に策定した「立川市前期施設整備計画」に、市の施設は築30年以上が約77%を占めていて老朽化が進んでいることや、財政見通しや将来人口推計を用いて令和35（2053）年までに床面積で約20%（7万㎡）、建替え・改修コストで約312億円を削減する目標を掲げました。この「立川市前期施設整備計画」の中の生涯学習関連施設について、改修工事や修繕等の必要性や優先順位を検討しました。
事 業 今 後 の 成 果 向 ・ 課 題	<p>【成果】「前期施設整備計画整備順序方針」に基づき、優先度の高い砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替え及び錦学習館の改修工事のための設計を行い、学習施設の機能の維持に努めました。</p> <p>【課題】新型コロナウイルス感染症の影響のなか、オンラインでの講座や学習館等利用時のWi-Fi使用への要望がありました。Wi-Fiの設置がされましたが、生涯学習活動をこの様な状況でも継続し、提供できる設備として今後は利用の促進が必要です。</p> <p>【今後の方向性】「立川市前期施設整備計画」及び「前期施設整備計画整備順序方針」に基づき、砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替えと、西砂学習館及び滝ノ上会館の改修工事へ向けた準備とともに、錦学習館の改修工事を進めます。コロナ禍により多くの人が一か所に集まれない状況の中、生涯学習講座のリモート開催やWeb会議等を促進していきます。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>施設整備計画の中では、建替え改修コストを削減する目標が含まれており、複合化が学習施設に及ぼす影響がないように利便性と充実を図りながら計画を進める必要があります。進めるにあたっては、施設利用者の意見を聴取し、より多くの市民が利用できるように質の向上に向けて、十分な議論が行われることに期待します。</p> <p>全学習館にWi-Fi環境が整備され、利便性は向上していますが、活用方法の方向性が未計画である点が課題で早急に対応する必要があります。また、今後は学習等供用施設においても予約方法のIT化やWi-Fiの設置を検討する必要があります。</p>
----	--

## 3. 評価

評 価	C	S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
							C	

# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-② 公平で柔軟な施設利用の推進や学習施設の連携促進
目的	<p>地域学習館などの学習施設では、利用者の利便性の向上と公平性の確保を目的として、パソコンや携帯電話・スマートフォンなどから施設の空き状況確認や仮予約ができる「施設予約システム」を導入しており、幅広い地域からさまざまな年齢層の方が利用しています。</p> <p>これに対して学習等供用施設は、指定管理者が窓口で直接受け付ける申込方式を採用し、電子機器の利用に不慣れな方の学習機会を確保しており、地域住民の身近な学習施設として親しまれています。また、地域学習館や学習等供用施設は、学校を筆頭に、他の学習施設や児童館、図書館、歴史民俗資料館など、学びやまちづくりに関わる多様な施設との連携を進めます。</p>
主 関 係 す る 事 業	<p>●生涯学習活動推進事業 ●地域学習館事業 ●地域学習館維持管理</p>
3 年 度 取 組 状 況	<p>施設予約システムによる施設利用申込を地域学習館、女性総合センター、子ども未来センター、市民会館、体育館で実施しました。</p> <p>学習等供用施設において、3年に一度のアンケートを全館で実施しました。</p> <p>施設予約システム：アクセス数509,274件、利用者登録12,090件（前年度：アクセス数352,779件、利用者登録11,645件）</p>
事 業 の 成 果 ・ 課 題 の 方 向 性	<p>【成果】パソコンや携帯電話、スマートフォンなどから施設の空き状況や仮予約ができる手軽さから市公共施設の予約手続きの利便性が図られています。誰でもアクセスできるシステムかつ抽選による予約方式を取り入れていることから、公平性が確保されています。</p> <p>【課題】各施設の業務用及び利用者用端末が設置から長年経ったことで、機器故障により一時的にシステムを利用できない問題が発生しています</p> <p>【今後の方向性】11館ある学習等供用施設は、地域性により利用状況に差がありますが、市内社会教育施設の有効利用や事業連携につなげていけるようイベント等の情報共有から始めます。業務用端末の市情報推進課管理への移行、保守内容の見直し、機器更改の時期を検討するなどシステムのさらなる安定供給に向けて運用を実施してまいります。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>施設予約システムのアクセス数が大幅に伸びたことから見られるようにパソコンやスマートフォンから予約できるシステムは社会状況にあっています。しかし、インターネット上で行えるのは仮予約までとなるので、利用者の利便性や社会情勢に配慮した運用を検討していくことが求められます。また、学習等供用施設の予約方法にシステムの導入を検討するなど、様々な場面において積極的にICTを活用していく必要があります。</p> <p>学習等供用施設との連携については、地域学習館とイベント等の情報共有すらできておらず、どちらかの会議等に参加して連携を深める場面をつくるなど具体的な検討を行う必要があります。</p>
----	--

## 3. 評価

評 価	C	<p>S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある</p>	過 去 の 評 価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								C



# 立川市第6次生涯学習推進計画令和3年度取組状況の進捗評価表 (令和4年度実施)

## 1. 評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

取組	Ⅲ-3-③ 施設の維持管理
目的	<p>地域学習館や学習等供用施設は、いずれも長い歴史と伝統を持って地域に定着しています。一方で、施設や備品は歴史に相応して著しく老朽化が進んでおり、適切に維持管理しなければ、学習活動を制限したり疎外したりする一つの要因となりかねません。それだけでなく、災害時にはすべての地域学習館や学習等供用施設が避難所として利用される場合があります。市民の安心・安全を確保するためにも、施設の老朽化対策は喫緊の課題です。</p> <p>市民が安心して施設を利用することができるよう、公共施設再編の動向も注視しつつ、適切な維持管理に努めます。</p>
主関連する事業	<p>●地域学習館維持管理 ●学習等供用施設管理運営 ●歴史民俗資料館施設管理</p> <p>●古民家園施設管理 ●八ヶ岳山荘管理運営</p>
3年度取組状況	<p>西砂学習館の雨漏りや、各学習館の誘導灯設備や非常照明器具の修繕等を行うとともに、学習等供用施設では、消防設備保守点検で指摘を受けた誘導灯設備のほか、排煙窓やエレベーター、ガス漏れ警報器や空調設備等の修繕を行い、利用者の安全確保に努めました。また、歴史民俗資料館新館の扉の修繕、古民家園の消防用設備の修繕等を行いました。</p>
事業の今後の方向性・課題	<p>【成果】誘導灯設備や非常照明器具、排煙窓やエレベーター等の修繕を実施したことによって、施設の適切な維持に寄与することができました。</p> <p>【課題】ほとんどの生涯学習関連施設は築30年以上で老朽化が進んでいることから、雨漏りや漏水、空調機や自動ドアの故障等の緊急的な修繕を優先せざるを得ないため、施設的美観の維持や機能をレベルアップするような工事等ができないことが継続的な課題です。</p> <p>【今後の方向性】生涯学習の地域拠点として、また、発災時の避難場所として、利用者の安全性や利便性等を最優先としたうえで、施設や設備の経年劣化に対し、計画的に修繕等を進めます。今後は、砂川学習館／地域コミュニティ機能複合施設（仮称）への建替えへ向けた準備と、錦学習館の改修工事を進めてまいります。</p>

## 2. 生涯学習推進審議会によるコメント

総評	<p>施設の老朽化に伴い、必要などころから修繕をしても追いついていないのが現状だと思います。しかし、災害時の拠点となる施設も多いので、定期点検、修繕計画、時代の求めるバリアフリー等、利用者の安全・安心に対する一層の配慮が求められます。</p> <p>改修工事を行っても維持管理で様々な問題を抱えている施設があることから、あらかじめ予算や人員の確保、市民の要望など、時代の求める施設になるよう事前調整を行ってください。</p>
----	--

## 3. 評価

評価	B	<p>S: 予想以上に効果的で優れた取組を行っている</p> <p>A: 順調に達成している</p> <p>B: おおむね順調に達成している</p> <p>C: 達成見込みであるが一部課題がある</p> <p>D: 達成に向け困難な課題がある</p>	過去の評価	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
								B

## I-1-① 市民ニーズにこたえる事業の推進

市民の視点で企画した講座の充実を支援できています。今後も密接な連携を続け、支援を行ってください。

若い人への周知はSNSの活用が効果的です。また、講座のライブ配信や録画をして動画による視聴ができるようにしておくのも方法の一つです。  
ターゲットを絞っていく必要もある。委員が高齢化しているのと同時に受講者も高齢化しているのではないかと思いますのでターゲットを絞っていき、より一層魅力的な講座設定が必要だと考えます。

立川市の生涯学習事業の柱である市民交流大学の運営事業については、他の全ての事業に共通する課題として若い人材の登用を図り、更なる内容の充実に期待します。

すべての市民が学べるように、多様な団体との協働を行うことができおり、地域の施設を生かし、市民ニーズに合わせた講座を開設し、コロナ禍でも多くの市民が利用することができた。

立川市民交流大学の募集では、人気の講座はすぐに定数を超えることもあり、市民のニーズに合っていると感じる。コロナ禍でも、市民の希望を重視し意見を取り入れ、生活がうるおうような事業の開拓を一層進め、市民の意欲を高めてほしい。

「学びたい方法で」と目的にありますので、今後はオンラインでの受講も可能にする準備を始められてはいかがでしょうか。Wi-Fi環境が整備されつつあるようですので、オンライン配信の基本装置(PCとカメラとweb会議用スピーカーマイク等)の貸し出しと、やりかたの指導ができる体制を整えられるとよいかもかもしれません。

コロナ禍であったが、昨年より講座回数、参加者数も増加となり、多様な講座が開催されたことは評価できる。市民推進委員会の再編成の時期とのこと、効果的な入会案内の周知、活動しやすい環境づくり等に努め、今後も市民ニーズにこたえる講座が企画できる様、取り組み方法等の改善を更に図って欲しい。

市民企画講座、推進委員会市民の関心の高い講座が作られていると思います。  
委員の減少・高齢化が進んでいることが気になります。継続して活動するためにも若年層の人達が活動に参加できる工夫が必要に思います。

どの講座も、開催回数・参加人数が前年を大きくうわまっており、コロナ禍のもとでも、市民が学習意欲をもち、交流を望んでいることが分かる。市民企画講座は多様に展開され、団体企画講座は市民リーダーが多数の講座を企画していて、市民目線からニーズに応えている。行政企画講座も毎回アンケートで、市民が望む講座を調査している姿勢は評価出来る。

コロナ禍にもかかわらず事業実施が実現できている点は評価できます。しかし、課題にも指摘されている年齢等の偏りや高齢化は以前からある課題であり、進展性が見えていません。若年層を取り込むためのニーズの掘り起こしや喚起の具体策に着手することが急務です。仕組みそのものが市民に周知されていない点も含めて、課題が多くB評価です。

### 【未反映】

- ・市民のニーズにこたえる学習機会の提供ができたことは評価できます。
- ・市民が生涯にわたり学習できる場を提供していくことは、教育行政として取り組むべき課題です。学習は、市民が自分自身が困った時などに意欲をもって取り組むことが多いものです。例えば、外国籍市民への日本語教育、子育てに困った時の家庭教育などは今後も必要とされる学習です。各世代の困りごとを解決する学習機会の提供という考え方もあるのではないのでしょうか。
- ・また、市民のニーズにこたえるという受け身の姿勢も大切ですが、市の目指す方向に向けて、例えばSDGsなどについての学習課題の設定なども必要はないのでしょうか。

## I-1-② すべての人が学べる機会の提供

多様な受講者層を対象にした講座を企画・実施できています。‘出来得る限り可能な範囲’の配慮の取り組みをより実践していけるよう常に意識するとともに、体制づくりが必要です。

寿教室は参加者が多くニーズに応じた開催となっていると思います。インクルーシブ教育の推進等を考えると障害者理解講座等の参加者が少ないのは感染症等による影響も大きいと思いますが、今後に向けて内容・啓発・宣伝等を検討していく必要があります。

「すべての人」が学べる機会を「すべての人」に提供するという意味を考えると、その提供の仕方についても検討しなければならないと思いますが、それはここでは触れずに、「すべての人」が学べる機会の機会は、障害のある人、高齢者、外国籍の方、子どもや子育て世代などが考えられる。その中で、高齢者に向けては寿教室が評価対象とされていますが、「シルバー大学」も大変多くの高齢の方々に人気のプログラムとなっています。立川市内の生涯学習機会を評価するのであれば、ここに評価対象とされている「機会」以外の「機会」にも目を向けて評価したら如何でしょうか？

多様性を重視し、年齢や障がいの有無に左右されない、平等な学べる機会の提供に努力していると思う。今後も、さらに学べる機会均等を目指し、障がい者やその支援者、高齢者、保育に携わる保護者や養育者、外国人の方々の意見を取り入れるなどの推進を図り充実させることが大切だと思う。

コロナ禍であったが、各種講座自体は開催日数も増加したが、参加者は定員等の縮小もあり人員は減少した。多様な人々が学習機会を享受できる様にするために、どの様な配慮が必要で、どの様な支援ができるかを検討し、配慮事項(手話通訳、音声や映像での支援など)として明確に記述したものを配布する等、努める。

文化、表現の違い等で何気なく使っているものでも相手にとっては不快に感じたりすることもあるので外国人の方々が参加、話しやすい環境づくりを考えてほしい。他の関係機関(例社協)と連携することもよいのでは。

障害者対象の青春学級や高齢者対象の寿教室は充実しているようだが、それ以外の市民との交流の場が提供できると良いのではないか。日本語を話せない人たちにはボランティアにより「日本語教室」が開かれているが、一緒に食事を作るなどの交流の場を企画して欲しい。民間委託した青春学級については、定期的な転換が欠かせないと思う。

コロナ禍でまつり事業やスタッフ交流事業が中止になってしまった点は残念ですが、地域学校コーディネータとの情報交換の機会が得られたことは評価できます。開催方法を工夫することによって感染対策を採ることもできると考えられますので、全館に導入されたWi-Fiを活用したオンライン開催など錦学習館の前例を生かすことに期待してB評価です。

### 【未反映】

- ・コロナ禍の中でも密を回避するなどの方法で講座などが開催されたことは、評価に値します。
- ・障害者のある方への学習の機会を委託することによって充実させただけでなく、その保護者から要望のあった研修を開催できたことも新たな展開として評価できます。
- ・障害のある方と保護者や、日本語を話せない方への学習の機会の提供には、これまでにない取り組みが必要になることもあるので、先事例の収集や関係団体との連携、これまでの経験の蓄積などが必要になります。
- ・わかりやすい日本語での告知や翻訳の可能なHPへの情報の掲載、TwitterなどのSNSを利用するなどの工夫も今後求められるのではないのでしょうか。

## I-2-① 交流の場や機会の提供

たちかわ市民交流大学の行政企画講座において、講座内での交流ができています。感染症拡大防止措置のなかでも新たな形式で交流ができたことは良い点として挙げられます。今後も「交流」が見られる講座にしてください。

子どもや高齢者の対象を限定した講座やイベントの開催で同世代が集う機会が創出されました。対象を絞って開催する講座の必要性を強く感じます。

学習館と各地域学校コーディネーターとの顔合わせ、意見交換会が開始できています。地域学校コーディネーターには、学校と地域の人材をつなぐ役割を担う立場で、双方の要望を聞き入れ調整していただく必要があります。

ほとんどが中止になっているので何とも言えないが、次年度は通常通り開催するために感染対策の徹底などガイドラインの基準を設けて実施できるようにしていくと良いのではないかと思います。

居住する地区によって移動の困難さから、学習する機会に差異が起こらないような配慮や、曜日や時間を幅広く選択できるようにすることで更に多くの市民が学べるよう努めてほしい。

今年度もコロナ禍ではあったが、「学習館まつり」等、内容を検討しつつ実施ができたことは、それなりに成果があったと捉えることができる。  
また、「平和都市30周年事業」に様に、六館全体で取り組み、同一資料を全館回覧できた活動内容は評価したい。今後も、地域の特性を見極めつつ、内容等工夫しながら多くの人々の交流の場を増やすことを目指していく。

「学社一体」の実現に向け、今後も定期的に地域学校コーディネーターとの交流を続け、情報の双方向交換をしながら、地域で子どもたちを育てる基盤・体制等を一緒に作り上げていく。

学習館祭りが中止になることはとても残念なこと。交流としての大きな役割をもつまつりが中止、年々高齢化等が進む中出展、出演、団体が減少傾向にあることが気になります、工夫努力が必要。

コロナ禍によって、交流会や錦学習館以外の「まつり事業」が中止になったのは残念だが、リモート開催を模索した学習館もあり、それなりに次のステップになったのではないかと。学校との連携をめざす地域学校コーディネーターが十分に機能していないように思う。まず地域学習館運営協議会への参加などから始めたらどうか。

コロナ禍でまつり事業やスタッフ交流事業が中止になってしまった点は残念ですが、地域学校コーディネーターとの情報交換の機会が得られたことは評価できます。開催方法を工夫することによって感染対策を採ることもできると考えられますので、全館に導入されたWi-Fiを活用したオンライン開催など錦学習館の前例を生かすことに期待してB評価です。

### 【未反映】

- ・コロナ禍の中でも、「学社一体」の取り組みが進められたことは評価に値します。地域学校コーディネーターに学校への地域での教材となる情報を提供することは必要なことです。
- ・事業については、対面しなくともZOOMなどリモートでも可能なことから、関係団体と協議し、可能な方法で実施していく方向を検討することも考えられます。
- ・立川市内には、それぞれに地域の特性があり、地域の課題も異なることから、地域団体と連携し、地域団体が必要としている情報を提供できる学習機会を提供していくことも必要です。ZOOMやYouTubeの動画での配信による学習機会の提供は、多忙な子育て世代などにも自宅での学習機会を提供することができるので、導入への検討が求められます。

## I-2-② 地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進

環境や平和・人権、多文化共生など、多方面からの課題を扱う講座の開催によって、他人事ではなく身近な課題として考える機会を創出できています。「いきいきたちかわ出前講座」の制度活用のためさらに周知を行う必要があります。多くの人の目に触れるような工夫をしてください。

学校で教科化されたこともあり「立川市民科」の周知は進んでいますが、生涯学習における「立川市民科」の講座の取り組みも進めてください。「立川市民科」は地域を知るだけの学びではないはずで、地域に関する課題を見つけ、課題を解決するための提言やボランティア活動など、具体的な取り組みまで行い、市民が主体的に行動する社会の担い手となるまでが「立川市民科」という前提に立った取り組みをお願いします。

地域課題の解決に結びつくような講座、学びの成果を地域課題の解決に生かしていく講座となるような前提とした企画検討・実施を行ってください。

学校と連携して「立川市民科」の学校区又は地域によるカリキュラム化を図り、立川市民としての子どもから大人までの生涯学習の充実につなげてほしいと考える。

各地域独特の地域課題が何であるのか？その見極めが難しいと思います。西砂学習館の「サマーイベント」は大変な人気で、利用できない方々から不満が出るほどですが、夏休み中の子どもの居場所づくりは他の地域においても課題となることだと思いますので、この取組が全市的に実施されることを願います。また、この取組を更に発展させて、子どもたちの為にというコンセプトの下で、年齢を問わないより多くの地域ボランティアの方々の活動が更に活発になることを期待したい。

コロナ禍でも工夫し、地域や関係団体の協力により夏休みに学習館で子供向けの事業を行うなど、地域課題の共有化ができており、参加者数からも成果を上げていることが分かる。

立川市民科の取り組みも始まり学校ごとに工夫が見られる。これからの立川市を担う子供たちの経験が将来、地域の力となるべく、取り巻く環境と学習の推進を図り地域課題の解決につなげてほしい。

子ども向け事業や障がい者理解講座等、地域課題の共有化において、地域学校コーディネーター、SSW、主任児童委員等の意見を聞く機会を持ち、ニーズを把握する場を具体化することが必要である。地域ごとに課題を解決するための講座の共有も必要であり、又、立川市全体が取り組むべき課題を、全学習館で取り組む等も考えるべきである。福祉や医療などの多領域の部署とのネットワークも作り、地域住民が当事者として解決する力を獲得できるような学びの場を作り上げていく。

「子供の貧困」「少子高齢化」などの地域課題は、立川市全体そして日本社会全体と関わる課題である。西砂学習館の「西砂サマーイベント」、高松学習館の「障害者理解講座」など、特筆すべき取り組みに各学習館の地連協のメンバーが参加するか、他の学習館に出前をするなどの工夫により、取り組み内容を共有することが大事だと思う。各学習館の特殊性や地域性にあった取り組みに生かされるのではないかな。

地域課題に根差した事業ができてきており評価できます。また、学習館6館の代表者会議も設定され、地域課題の共有化への第一歩が始まっている点も評価できます。共有化された課題に対して実際の解決につながる事業が実現できれば、地域の市民も参加しやすく「立川市民科」の取り組みとして必然的に学びが推進されると考えられますので、あと一歩のところまで来ておりB評価です。

### 【未反映】

- ・地域の特性に適応した取り組みが、他の地域にも広がることは成果として評価できます。
- ・個々人の学びの成果が地域活動に反映され、さらなる地域の改善につながる学びのスパイラルができることが理想です。立川市民科が学校教育だけでなく、成人教育の場でも成立することを目指した学習の実現にむけて、様々な実践がなされ、その情報の共有がなされるような体制を構築していくことも望まれます。
- ・地域では、子どもの貧困以外にも、子育て家庭や高齢者、独身者の孤独、孤立など、身近なところでも地域課題が生まれています。生活に追われ、多忙な中、困っていても声を上げられない隣人がいるかもしれないことについて注意を喚起していく情報の提供も考えられます。
- ・立川市には転入者も多いことから、新しく住んだ街を知りたいという意欲をもつ市民もいます。地元の市民が地域の歴史などの紹介をしつつ、生活情報を提供し、さらに自治会などの地域組織への加入につながるような講座などの支援も考えられます。

## I-3-① 市民とともにつくる学びの場づくり

たちかわ市民交流大学の市民企画講座の企画時には会場が偏りに配慮し、キャパシティや講師の都合を鑑み、できる限り市内全域で開催するための調整ができています。今後は市民推進委員会(講座事業部)が主導して調整することも期待します。

年間を通してたちかわ市民交流大学の市民推進委員を募集し加入者が随時あったことは高く評価できます。

たちかわ市民交流大学の公募型団体企画講座は、団体の特色が見られる講座を複数実施できています。さらに開催を促進できるよう、募集の方法について検討が必要です。

大学との連携は大いに進めていく必要があると思います。学生の知識・知恵と行動力を活用して取り組むことにより若年層への周知・啓発にもつながっていくと考えます。

昨年度の市民企画講座の参加者は、1483名、団体企画講座は1737名に上った。同じ講座の開講回数は1回から12回で、1回のみ開講がほぼ半数だった。しかし講座の種類は62種にもおよび、生涯学習から始まる町作りに市民が積極的に参画するものとなっている。「学習者から実践者へ」の循環機能をさらに推進するために講座の受講者の感想をもとに次代に生かせる講座内容だったかの検証を取り入れてほしい。

学生を巻き込んだ活動は素晴らしいと思います。今後は広報体制の充実を図られてはいかがでしょうか。地域の学生に届きやすいSNS媒体の充実やキーとなる若者との協力体制をつくっていくなど、簡単ではありませんが、発信の強化をつくっていくならばより活性化するように思います。

市民推進委員会が学生と一緒に活動が広がった点、また、公募型団体企画講座が参加数を増やしたことは成果である。更には、幅広い層の人々が講座に参加できる様、広報手段等を見直すことが大切である。より広く市民ニーズに合った講座を創出するためには、地運協への多様な世代や立場の人々に参加してもらい、意見を聞く機会を設ける様な柔軟な対応をする方法も考えていく。

公募型団体企画講座については地域学習館から声掛けすることも良いと思います。PRは必要。

各種団体との協働だけでなく、「立川を歩こう」や平和・人権講座など、行政企画講座ではあるが、市民が企画に参加して進められている講座が半分以上ある。協働出来る市民の発掘(?)につとめてもらいたい。公募型団体企画講座については、市民団体が自ら講座を企画するという意味では画期的なものなので、若年層に訴えるなど、さらに周知に努めてもらいたい。

学生参加型による新しい視点での課題解決を目指した事業が実施できている点は評価できます。課題で指摘されている若年層を呼び込み様々な年代の方が参加できるような企画を学生に任せてみるなど、新たな取り組みを広げることも必要です。B評価。

### 【未反映】

- ・学生が参加する講座の企画など、若い世代の感覚を取り入れた事業の実施などの方向性は評価できます。
- ・立川市ではジュニアリーダーなど子ども会のリーダーを育てる伝統もあり、高校生や大学生などの世代でボランティア活動に取り組んでいる地域の青少年もいます。このような青少年の発想や企画による講座や事業の実施なども検討できるのではないのでしょうか。
- ・公募については、応募する団体からは、応募する際の負担感などがあることも考えられます。しかしながら、応募したからには責任をもって実施までこぎつけることもその団体力量を育てることになります。公募については、団体育成の視点からの支援も必要ではないのでしょうか。
- ・生涯学習から始まるまちづくりには、学習者から実践者への意識の変革が必要です。学ぶだけではなく、学びを通して人と人が知り合い、つながりあって団体を組織化し、団体として行動が始まるような育成の過程も必要になります。LINEなど新しいツールを使っの団体育成などの情報も提供し、若い世代も参加できるような組織づくりが実践できるよう支援していくことも考えられます。
- ・学習の機会を対面だけにせず、リモートでの実施などを推進し、インターネットでの申し込みと講座への参加を可能にすることも一つの方策と思われます。

## I-3-② 各種団体・組織などと連携した学習機会の創出

市内の企業や団体と連携し、多様な講座を開催することができています。今後も連携を継続し、講座を充実させてください。

市内の国公立機関などとの連携ができたことは立川市民にとっても意義あることであったと思います。錦学習館や高松学習館の学芸大学との連携も生涯学習の発展にとって大変有効であったと思います。新しい世代の方々の考え方や展望を伺うことだけでも意味があることだと思いますので。そして、東京女子体育大学や国立音楽大学との連携も更に発展させて学習機会の拡大を計れると良いと思います。

市内の公的な機関や大学、東京学芸大学や国立音楽大学との連携・協力で、学習機会を増やすことができている。社会的、職業的な地域資源も立川ならではの農業や、商業、スポーツなども連携を強固にし、「オール立川」で自他ともに繁栄するための学習機会を得ることで市全体が活性化することが必要である。

大学・高等教育機関や研究機関、活力ある企業等の連携・協働による活用は評価できます。地元中小企業との企画も推し進め、地域独自の特性を引く出す学習機会を作り出していく(未開拓の地域産業・工業等の側面から開発し、新たな学びの場を創り出す等)。職員の企画力、コーディネート力の育成は、「学社一体」の流れを推し進めていく上で益々求められている。十分な研修体制を確立し、諸機関・団体等の関係者と連携・協働関係を作り上げ、地域が一体となって活動を進めていくリーダーシップを取ってほしい。

学生の方々と共同事業「かわせみカフェ」毎年テーマを決めての事業・課題によっては地域の団体との連携ができその後もよい関係が継続している、そういう場面が色々出来るとよいと思います。職員のコーディネーターが大事に思います。

立川市には国立の研究機関が多くあるが、2021年度の実績では国立極地研究所と連携した講座が4回となっている。昨年度は国立国語研究所もあったようだが、国語研究所資料館や統計数理研究所などと連携した講座も企画してほしい。東京学芸大や東京女子体育大学との連携により、若い世代の視点が講座に生かされていることは評価出来る。

大学や各種団体との連携事業が広がりを続けており、職員の方のコーディネート力も向上している証拠だと考えられます。B評価です。

### 【未反映】

- ・立川市の立地条件を生かした地域資源を活用した講座が展開されていることは評価できます。
- ・立川市社会福祉協議会などの市民活動を促進する団体や専門的なNPOなどと連携することで、市民が地域課題についての情報の提供を受け、活動に必要な技術の習得なども可能となることから、学習者から実践者になるべく活動の場を提供することができます。
- ・大学や各種機関の施設を利用することで、立川市ならではの市民の特典として、市民にアピールすることで、市のイメージアップにもつながります。
- ・引き続き、立川市内の地域資源を広く発掘し。活用できるよう教育関係に限らず、商工会議所などとも情報共有して行くことも考えられます。

## Ⅱ-1-① さまざまな媒体の活用による広報

感染症拡大防止対策で中止や延期となった講座において、ホームページでの更新は情報の確認手段として有効であったと考えます。

ツイッターなどの取り組みによって、講座情報が市民の目に触れる機会は増加しましたが、市民が定期的にSNSを確認していないと、効果が見えにくい部分もあると考えられます。

「広報」「HP」「情報誌」などを活用した広報活動は充実していると考えます。ただ、それでも参加者が少ないという現状ならば発信して待つだけでなく、発信の仕方・人的活用など角度を変えて外へ打って出る必要も検討する必要があります。

回60号を数えた「きらり・たちかわ」の情報量はかなり多くなっており、内容的にも大変読み応えのあるものになっていると思います。  
今後は、紙媒体だけではなく現代的なSNSを活用した広報の工夫は論を待たないでしょう。

「広報たちかわ」、「きらり・たちかわ」やホームページによって発信される内容はわかりやすく、広く普及している。高齢者や、情報が必要だと思われる世帯には、更に細かく内容を把握できるように紙面からの視覚だけではなく地域のコミュニケーションを生かした発信も必要である。

YouTubeへの挑戦を高く評価します。これからはYouTubeが自治体の映像ストレージのような役割をしていくと予想されますので、動画を制作してアップできる人たちを増やしていくことをおすすめします。

広報によりより多くの市民に情報として届く点から言っても、紙ベースが現在では最良の方法である。その点で、「きらりたちかわ」冊子の配布、配架場所の開拓等、取り組みには一定の評価はできる。  
更には、市HPへの音声、映像等での配信の配慮があれば、更に多くの市民への広報となる。「知ってもらう」ことから生涯学習の一步を踏み出すことに繋がる。より興味関心を持ってもらえるような工夫・内容とは、どの様なものか考えていくことも重要である。

「広報たちかわ」や「きらり・たちかわ」などの紙媒体の情報は、一定以上の年代には必要なものだと思う。若年層に知ってもらうためのツイッターによる発信が8件だけだったのは、反省事項だと思う。立川動画チャンネルを利用して講座紹介を行なったらどうか。動画チャンネルを福祉協議会に任せるのではなく、広報課が担当するなど、市が直接関わるべきだ。

ホームページやSNSの活用が引き続き行われ、冊子についても新たな取り組みがなされ評価できます。今後も新たな取り組みで広報活動を活性化し市民の目により止まることを期待します。A評価です。



## Ⅱ-1-② 学びの裾野を広げる情報発信

参加したくなるような内容の工夫のために、アンケートの評価を3段階から5段階にするなど、より正確な評価を認識できるようアンケートの改善に努める必要があります。市民の学習ニーズを反映させるためにも、声を聞く機会は今後とも設けてください。

「きらり・たちかわ」の市内読者を獲得できるよう、市民推進委員が個々に、自身の関係先へ働きかけを行っていることは、市内各所への配架が効果的にできていることを高く評価します。

学びの裾野を広げるには、「きらり・たちかわ」の情報をより多くの市民の皆様にお届けする工夫が必要ではないでしょうか。そのためには、自治会での回覧などは如何でしょうか？  
もし、既に行われているようであれば、まだまだどこかで滞っているのでしょうかから、その解決策も考える必要がありますね。  
また、若い世代の方々にもこの情報をお届けできれば、より幅の広く生涯学習の裾野を広げることにつながると思います。その為にはやはり、デジタル化やIT化の活用が必須ではないでしょうか？

学びのすそ野を広げるために、初めの1歩のハードルを下げるために、体験前に市役所など人の集まるところで実践動画等を流し、イメージをつかめるようにするなどの細やかな取り組みが必要である。また情報から興味・関心や質問等があったときに速やかに返答し、申し込めるシステムを導入することも考えてほしい。

勤労世帯には、安心安全、時短で思い立った時に常時使える講座や情報の提供を開拓してほしい。

広報「たちかわ」、「まちネット」「地運協便り」等、全戸の皆さんに必要な情報は届いていると思います。高齢の方々が情報難民にならないような紙ベースでの配信は今後も必要である。若い方たちは関心さえあれば、どの様にしても情報は入手できると思う。立川市のHP等の充実を図ることで、興味関心呼び起こして欲しい。  
勤労世帯や子育て世代対象とした講座を考えるが、開催曜日、開催場所、時間帯、保育、講座内容等課題が多く、ニーズに合わせた講座内容が難しい部分がある。ニーズの収集に今後も務める。

地域限定ではありますが社協が発行しているまちねっとなども利用してみてもどうでしょうか。

西砂学習館運営協議会が「西一元気通信」を継続的に発行して、自治会全戸に配布しているのは凄い。  
近隣には動画配信に熱心な自治体が多い、折角「立川動画チャンネル」がありながら、市が直接運営する形になっていないようだ。短い動画で講座の魅力を訴える工夫がほしい。

J:COMなど身近なメディアでの取材がコロナ禍の影響もあり減っている中、事業がより身近になるような発信に対処されている点は評価できます。SNSは課題になっている若年層に届くメディアですので、企画段階や予告、事業報告など発信数を増やすことで目に留まる機会が向上することが期待されます。B評価。

## Ⅱ-1-③ 学習相談体制の充実

単なる情報提供窓口にとどまらず、市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通じて実際に解決できるようなコーディネーターを配置してください。

相談窓口の設置は大変良い取組だと考えます。今後は周知と相談員の資質向上、内容の充実をより一層図っていくことが必要だと考えます。

「学習相談」体制の充実については、この情報社会の中で必要があれば市の相談体制を利用しなくても簡単に情報が得られる時代ですから、本取組の今後については、あまり力を入れる必要はないのではないのでしょうか？

市内の学習館で行う相談体制は窓口として役立っていると思います。しかし、コロナ禍では一歩進んだ相談体制や、より専門的な相談体制が必要不可欠だと感じます。生涯学習とは、全ての市民が一生涯、継続して豊かに生きるための学びであること、それが身近で誰にも求められるものであることを市民が認識し、多様なニーズに充分応えることができる見地や力量によって市民の満足度を上げることができるように人的体制のさらなる充実を目指してほしいと思います。

学習相談ができるということを、繰り返しあらゆる媒体で行っていくことが重要であると考えます。イベントがあるときには出張して周知を行ったり、また相談した結果の感想なども合わせて広められてはいかがでしょうか。

昨年度、生涯学習関係者研修が1回、事業連絡会が2回実践できた。その内容と成果等を十分に検討し、課題や今後の取り組みの方向として、どの様なことを目指していくのか明記した取組進捗表であって欲しい。

アイム一階の相談窓口は、単なる受付のように見えて、ついでに作った感がある、何とかならないものだろうか。学習相談なら地域学習館が担うのが自然だと思うが、職員が削減されて、とても対応できないのが現状だと思う。人員の保証をした上で、いくつかの学習館に学習相談の窓口を開くべきだ。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生涯学習情報コーナーへ足を運ぶことができない方の対応に工夫を求めます。例えば、オンライン相談に対応するなど考えられます。また、周知についてはSNSを活用した積極的発信などが考えられます。C評価。

### Ⅲ-1-① 学びにかかわる市民や組織との協働

生涯学習市民リーダーの活用が進むよう、今後も自己研鑽の場として成果が出ている「みんなの講座」などによる支援を続けてください。

委員や職員の生涯学習への意欲向上につながるような研修を実施してください。

市民企画講座においては生涯学習市民リーダーに5つのパソコン講座の講師を務めているなど協働していることは評価できます。

各種地域団体の充実が生涯学習を推進していくために重要なことです。団体同士の連携や協働の充実を図り、市民リーダーを積極的に育成していく必要があります。地域には立川市の発展に貢献している活動や未来につながる活動を行っている団体があると思います。企業の中にも社会貢献として様々な取組を行っている会社があります。これらの団体等と連携・協力をしながら協働していくことが必要と考えます。

昨年の進捗評価でも意見を言わせていただきましたが、学びにかかわる市民や組織との協働という時に外せないのは各学校にあるPTAの存在ではないでしょうか？子どもたちの成長にとって最も重要な環境である家庭において親の存在はその中核となるものだと思いますが、最近はPTA不要論まで出るような時代ですから、多忙を極めるPTA世代の方々の代わりにシニア世代ができることは何か無いのか、協働のための検討から始めては如何でしょうか？

立川市は、他市と比較しても多くの学びの場があります。これは各種地域団体や団体同士の連携、協働や生涯学習市民リーダーの活動に起因するものと考えます。それゆえに、連携を深め、地域から市全体へ成果を生かすこと、拡大、細分化する中でも自浄力を高め、推進できるように現在の運営協議会や、各種の評価を生かすことも重要だと思います。

今年度も西砂学習館では、夏のイベントに市民リーダーの方々の支援を受け、各種講座を開催ができた。更に多岐に亘っての講座内容を工夫していきたい。  
また、社協で募集している「夏ボラ」での学生参加が貴重な支援となっている。こういう素晴らしい体験を知ってもらい、市内学校等の連携協働面での支援の裾野を広げていきたい。

生涯学習市民リーダーの活動が盛んなのは評価出来る。また団体企画講座は市民が担い、行政企画講座の半分は市民参加で行なわれており、市民との協働は進んでいると思う。各学習館で活動している社会教育団体が学校教育に力を貸すことが出来る道筋をつければ、更に協働が進むのではないか。

学社一体の取り組みとして、市民リーダーの学校での活用は不可欠です。立川市民科として生活や社会の授業での活用や、放課後子ども教室での活用が考えられます。これらを実現させるためには学校側に対して市民リーダーの情報提供や交流がなされていない現状を改善する必要があります。地域学校コーディネータの活用も課題です。C評価。

## Ⅲ-1-② 地域を担う将来世代を育むしくみづくり

地域学校コーディネーターと地域学習館運営協議会との繋がり強化は、学社一体の成否に関して急務であり、着実な実施と、積み重ねのスピード化を求めます。

学校と地域が次世代を担う子供たちを育成していくためには、学校と地域社会が子供を育成していくための共通目標を設定し、熟議(互いの立場や果たすべき役割の理解していく熟慮して協議していくこと)を行い、協働(共に教育活動を進めることで、学校では子供たちの学びがより豊かになり、地域は創意工夫や特性を生かして活動がしていける)していく必要があります。

そのためには「地域学校コーディネーター」が学校と地域社会のつなぎ役を行い、「学校支援ボランティア」が支援していくことが大切です。その際、地域の講師(コミュニティーティーチャー)の人材リストを作成して学校のカリキュラムと連動して互いに理解しておく必要があります。このことが「学社一体」の推進につながってくると考えます。

西砂学習館や幸学習館などで行った「地域学校コーディネーター」との話し合いは意義のある取組だったと思います。今後は更に取組を深化させて実りあるものにしていきたい。

また、これまでに無い取り組みで孤軍奮闘するコーディネーターに対するサポート体制の充実や青少年健全育成委員会の皆さまなど関係する市民の皆さまへの情報提供もより広く行ない、地域での教育力の向上に更に協力してほしい。

「立川市に住んで良かった。」、「地域で経験したことが楽しかった。」と思える次世代を育みたい。地域の担い手は限られた者たちでなく、全ての将来世代であってほしいと思うとき、ヤングケアラーなどの悩みにも寄り添い支援し、本質的な学びから自らの力で克服する力をつけることもしくみの中に取り入れてほしい。身体的、家庭的に恵まれた子供達は、学べる環境に身を置くことができやすいが、そうでない子供たちも精神的に安定し学びを充実させるようなユニバーサルデザイン的なしくみがほしい。

これは正に、学校教育が求める「立川市民科」の狙いそのものである。その様な世代を育むためにも、地域と学校が一緒になって、子どもを育てる仕組みを作り上げる必要がある。そのためにも、地域学校コーディネーターが地域との橋渡し役となって、連携協働の旗振りを進めていくことを期待している。

また、地域学習館もその特性を生かし、人材の提供や、施設等利用しての活動等の展開等、協力を図りつつ、子どもの育成に関与していく。

コロナ禍の中で中々地域学習館から働きかけしても実を結ばないことが多い、長い目で見ていくことも大切なのかなと思います。継続的な話し合いは大切だと思います。

各学習館運営協議会が、それぞれ次世代の参加促進を意識しながら地域活性化講座を企画している。子ども対象事業も様々に工夫されている。しかし、市民企画講座・団体企画講座・行政企画講座を問わず、子育て世代を対象としたものが少ないと感じる。家庭教育講座の事業にはママが対象のものが目立つ。子育て中のパパと子どもが参加したくなるような講座がほしい。父親が子育てに積極的に参加する雰囲気作りは、日本の社会を変える上で大事だと思う。

地域学校コーディネータの活用がこれからという中、地域の子供たちが地域学習拠点となる学習館に足を運び事業に参加するだけでなく、企画段階から意見ができるような仕組みを設けるなど、新たな取り組みに着手することも検討したいところです。また、児童会や生徒会、ジュニアリーダーなど地域の次世代リーダーに学習館に対して求めることを直接問うなど、方法は多数考えられます。C評価。

### Ⅲ-1-③ 「立川市民科」の推進

「立川市民科」は地域を知るだけの学びではないはずで、地域に関する課題を見付け、課題を解決するための提言やボランティア活動など、具体的な取り組みまで行い、市民が主体的に行動する社会の担い手となるまでが「立川市民科」だという前提に立った取り組みをお願いします。

「立川市民科」の取組は市民愛を育み、未来に向けた発展のために大変良い事業だと考えます。ただ、それぞれの分野や部署でバラバラに推進していくのでは大きな成果につながらない可能性があります。学校と地域の施設が事業を推進すると同時に学校間や地域間、地域の施設間での連携が大事だと考えます。そのような取組が市民講座の充実となり、学校ではカリキュラムマネジメントの促進につながり、児童・生徒の学習の充実となります。地域の方も学校とのかかわりが増えてより身近な学校となり、児童・生徒とのかかわりにより生きがいにつながっていく可能性も秘めています。

「地域を知り」「地域を大切にしたい思いを育み」「世界を見つめ」「未来を拓いていく」子どもたちの育成を目指すという学校教育における「市民科」の目標に比べて生涯学習における「市民科」の考え方が明確に示されていないように感じます。  
大人たちにとっては、今更、世界を見つめ、未来を拓いていくなどとは考えにくいでしょうし、所謂、「市民満足度」とは異なったものなのでしょうし、なかなか難しい課題だと思います。市民の皆さまに「立川を愛する心」を持っていただけるようになる為の取組なのではないでしょうか？

今年度初めて学校教育に取り入れられた立川市民科の「目指す児童・生徒像」の周知と理解が進むことが必要である。また、教育現場の声をきちんと聞き取り、児童生徒にフィードバックしてほしい。

大人も子供の目線で今一度郷土について学びなおし、学んだことは他地域からの訪問者にも説明ができるくらいの素養が身に付けられると市民科を生かせると思う。

生涯学習における「立川市民科」として取り上げる地域特性について語れる人が年々減っていく時世でもある。後継者の養成や知的財産の記録等の保存と言う観点からも、意図的に講座等の企画を計画し、実施後の記録等もDVD等にきちんと残すなど、より配慮した取り組みの工夫を図っていくことを願う。

大人の立川市民科地元—地域資源等の情報共有出来るとよいと思います。

大人向けの立川市民科の講座として、「立川を歩く」「こころを傾けて聴こう 傾聴のお話し」などが行なわれたが、この他の講座でも「立川市民科」を謳ったものが実施されている。ブックレットやDVD作成が継続的に行なわれるように、特定の職員任せにするのではなく、担当部署を決める必要があるのではないか。

立川市民科の実例が積み重ねられてきている中、職員研修で展開する方向性は評価できます。事例に対する振り返りやまとめが公開され、多くの市民の目に触れる形で活用されることを切に望みます。B評価。

### Ⅲ-2-① コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化

養成講座で学んだことを活かして、市民が抱える課題を学びと結び付け、学習を通じて実際に解決できるようなコーディネーターとなってください。

生涯学習を推進していくには、コーディネーターとしての職員の養成が大きなポイントとなります。そのためには職員の継続的な研修機会の確保することや様々なノウハウを持っている大学との連携が必要となります。大学のノウハウを伝達する職員対象の研修の充実を図ることや研修体系を確立することは早急に取り組む必要があります。職員は異動がありますので研修の成果が個人に留まることがないように職員間の共有のための還元研修の機会を設ける必要があります。

日頃から生涯学習の充実のため、尽力いただいているおかげで立川市の生涯学習は内容や普及において、成果が出ていると感じます。職員のコーディネートによって、地域の人材活用や学習館と大学等との連携などまだまだ発展の可能性があると思います。学芸大学での研修や、協議会、職員間の密で風通しの良い情報共有を行い、市民を思う気持ち、意欲を生かしていただきたいと期待しています。

職員の研修制度が整い、大学での養成講座受講者が年々増えてきていることは良いことと捉えている。生涯学習を推進していくには、各学校施設や関係機関、諸団体との協力・連携を図っていくコーディネイトする能力が職員に強く求められている。地域においても、職員のコーディネート力がより求められている。受講者を通して、更に庁舎内の研修の場・体制を整備し、生涯学習の推進に向けた現状等を知り、現在求められていることはどのようなことなのか等、年間に決められた回数機会を定例化する様にして、職員の意識向上を図っていく。

課内研修だけでなく生涯学習に関わる委員とも共有出来るようにしてはどうでしょうか。

東京学芸大学の「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」に職員が毎年多数参加出来る体制を整えてほしい。また受講者が学んだことを他の職員と共有出来る場の設定も必要だと思う。地域学習館職員が身につけたコーディネート力を発揮しようとしても、職員が少なく忙しすぎる実態がある。生涯学習の充実を図るために、地域学習館職員の増員を求める。

研修を継続的に行っている点については評価できます。引き続き、研修受講者が増えて行けば、必然的に職員のスキルは向上するものと考えられますので、研修済み職員の還元については課題ではありますが、社会教育士講習など他の講習も視野に入れて無理なく進めていくことが大切です。C評価。

### Ⅲ-3-① 学習施設の充実と利便性の確保

砂川学習館の地域コミュニティ機能複合施設建替えを機に、生涯学習における立川市民科の推進を模索し、他の施設へも展開をしてください。

施設等の老朽化対策への予算の削減は社会状況からやむを得ない面があると思いますが、事故が起きたり、利用者の利便性や活動制限が生じたりしてからでは遅いので優先順位をつけて取り組んでいく必要があります。

今年、念願だったWi-Fiの設置が行われましたので、利便性は確実に向上したと思います。今後は、学習等共用施設においても施設予約のIT化やWi-Fiの設置を求めます。

老朽化に伴う施設整備計画の中では、建て替え改修コストを削減する目標も含まれており、床面積で20%の削減目標があることから複合化が学習施設に及ぼす影響がないように利便性と充実を図りながら計画をすすめてほしい。

市民の必要性に沿った学習施設が使い心地の良いものになるように施設整備計画を進め、これまで築いた生涯学習活動の妨げにはならないことが肝要である。

コロナ禍において、今までに無かった講座、学習の方法・方策等が検討を余儀なくされた。このことを念頭に置き、この様な非常時であっても、学びを止めない工夫(リモート、講座内容・人員定数・環境設営の工夫等)を今後も考えていって欲しい。

学習館施設の充実については、地域住民、地運協委員等の意見も十分に聞き、施設整備に反映することを希望します。又、複合化によって、より多くの市民が利用し、質・量ともに増加するように、十分な議論を期待します。

施設(砂川学習館)の建て替え期待しています。管理している職員、利用者の意見を充分聞き取ってほしいです。

砂川学習館を建て替えて、地域コミュニティ機能複合施設にする方向で計画が進んでいる。新しい機能を加えるのに、現在の面積を20%削減するという計画である。複合化の名の下に、学習館部分を大幅に削減する計画である。複合化により学習機能を低下させる様なことはあってはならない。学習館利用者の声を聞いて建て替え計画を進めるべきだ。

建て替え設計に着手し、実現に向けた進捗は評価できます。また、全館Wi-Fi整備も完了し、利用者の目に見える形での変化が出てきています。利用者の利便性の確保のための利用方法や活用方法の方向性が未計画である点は大きな課題であり、利用者の意見聴取と反映など早急な対応が求められます。B評価。

### Ⅲ-3-② 公平で柔軟な施設利用の推進や学習施設の連携促進

学習等供用施設イベント等の情報共有ですら進まないのは問題で確実に実施してください。

パソコンや携帯電話・スマートフォンから予約できるシステムは社会状況にあります。様々な場面において積極的にICTを活用していく必要があると考えます。  
地域学習館や学習等供用施設はもっと学校と綿密に連携していく必要があります。生涯学習は小・中学生を巻き込んで子供のうちから進めていかないといつまでたっても大人や高齢者だけのものというイメージが払しょくできないのではないかと思います。

施設予約システムのアクセス数が大幅に伸びたことに見られるように、時代はIT化やデジタル化が進んでいることが明らかです。今後は、学習等供用施設においても導入していただき、幅広い世代の方々の利用につながるよう努めていただきたいと思います。  
また、学習館と学習等供用施設との連携がなかなか進んでいないと思いますので、学習館運営協議会の会議へ学習等供用施設の委員の出席を求めることも必要ではないでしょうか？

どの施設においても安心と安全、特にコロナ禍でも活用ができるような設備の導入や見直しが必要になった。また、コロナ禍だからこそ市民が求める時は、随時役に立つ地域施設として利用を推進するために、ITに精通した人材や、改修された施設のシステムを使いこなせる人材の育成、マニュアルの徹底も施設利用の推進には必要だと思う。

施設予約システム、アクセス数の増加、利用者登録数も増加、利用者にとっては便利であることが実証できる。11館ある学習等共用施設の管理者が、一堂に会して利用状況の現状や課題点等、話し合うことで懇親を深め、社会教育、生涯学習推進のため、施設としての推進に向けた役割・認識等を深めたりして、地域活性化のために協働体制を図っていくための検討する機会を持つよう努めていく事も必要である。

公共施設への仮予約は利用者にとって便利です。システム抽選によるものなので公平性は確保されていると思います。学供施設の申し込み方法1歩前進することは難しいですか。

地域学習館の仮予約システムは、パソコンやスマホが利用出来て手軽だが、本予約は各学習館等に出かける必要がある。これでは、とても便利とは言えない。パソコンで予約するだけで確定できる自治体もあり、本市でも仮予約で会場を取れたら、そのままパソコン・スマホで本予約が行えるようにシステムを変更してもらいたい。地域学習館は、学習等共用施設と違い、周辺地域の人たちのみが使う施設ではない、利用者の負担を減らしてもらいたい。

施設予約システムの安定的な運用及び利用が図られており、評価できる点があります。学習等供用施設など他の施設との利用配分のしくみが未だ着手されておらず、公平性や柔軟性も課題があります。事業規模や内容によって利用施設の傾向に基づき、それらのデータに基づいたAIによる施設利用提案のアシストなど、新たな方向性の検討も有効です。C評価。



### Ⅲ-3-③ 施設の維持管理

砂川学習館の地域コミュニティ機能複合施設建替えを機に、生涯学習における立川市民科の推進を模索し、他の施設へも展開をしてください。

公共施設の老朽化と修繕・建替え等はこの自治体でも大きな課題となっています。市も必要なところを修繕していますがなかなか追いついていないのが現状だと考えます。災害時の拠点となる施設も多いので計画的に修繕を進めて維持管理していく必要があると思います。

築年数が長く経過した施設について、よくメンテナンスがなされており、施設管理の担当の方々に御礼を申し上げます。

定期的に客観的、かつ専門的な点検を行い、老朽化に伴う安全面での不安や、不都合がないように早めの対策で施設を維持してほしい。

予算の削減を目標にしている改築においても安全と耐久性に合わせた予算取りが必要である。

老朽化した施設の維持管理を丁寧にする、最終的には施設の安全な長期利用につながるのととても重要だと考えます。毎日通っている職員は見慣れてしまっているので、改善の必要に気がつきにくいという側面もあります。また、チェック項目にない部分の管理も安全な長期利用には欠かせないものです。時には第三者が見回りをし、気づきにくかった部分の指摘をしていただくにより維持管理が能動的になるかもしれません。

施設の定期的な点検、年次的な修繕計画、時代が求めるバリアフリー等、利用者の安全・安心を一層の配慮が必要である。  
地域学習館施設や学共施設が、緊急時の二次避難場所としての利用が計画されているので、その面からも施設設備の整備を進める。  
今度の修繕・建て替え計画に際しては、地域住民の声を十分井聞き取り、時代が求める施設になるよう望みます。

多くの学習館が築30年以上で老朽化が進んでいる。最近建て替えた柴崎学習館は、見栄えは良いが、教室が減らされたり、一小との複合施設であるために電気系統が複雑で、WIFI導入に苦労したり、様々な問題を抱えている。こうした経験に学んで、利用者の声を生かした立て替えや改修を進めてもらいたい。

砂川学習館の改修に向けたステップが着実に進んでいることは評価できます。一方で、新型コロナウイルスのまん延などで感染拡大防止のための新たな設備やバリアフリー対策、新しい利用方法に必要な設備など、時代と共に公共施設に求められる機能は変化しており、これらに対応するための余裕を持った予算確保や人的確保などは大きな課題です。C評価。